

八戸市いのちをはぐくむ教育アドバイザー事業

1 目的

生徒が自己の性に対する認識をより確かなものにするための性に関する専門的な指導を行い、性に関わる諸問題に対して適切に判断し対処できる資質や能力の育成に資する。

2 方法

市内中学校26校を対象に、6名の医師（産婦人科医、小児科医、内科医、泌尿器科医等）が2～5校を担当し、中学校に赴いて年1回講演や授業を行う。その際、事前・事後の調査や指導について、指導・助言を受ける。また、希望者には沐浴実習を実施する場合がある。

3 内容（アドバイザーの活用事例）

（1）年1回の指導

全校集会、学年集会、授業での生徒や保護者対象の講演会等

（2）随時の指導

- ・講演等の持ち方・講演終了後の事後指導に対する助言
- ・性に関する生徒本人に対する相談・指導

（3）養護教諭を介しての専門医によるカウンセリングの実施

4 日程及び担当医師について

（1）日程

5月…委嘱状交付式、事業説明、実施日の調整

6月～12月…アドバイザーによる訪問指導の実施

2月…思春期ネットワーク研修講座（事業の成果と課題のまとめ）

（2）担当医師

担当医師による担当校は、年度ごとに移動する。

5 各学校の報告書からみるこの事業の成果（抜粋）

- ・思春期の身体の変化や男女の身体の違いを学び、お互いを理解することができた。また、未熟児の成長と医師の努力から、いのちの大切さや他人への思いやり、親・関係者への感謝の心が見られた。自分も友達も大切な存在なのだと改めて確認できた。
- ・泌尿器科の特徴を生かした講演であり、射精等は男子にとってとても勉強になった。性感染症等の映像に強烈な印象を受けた。生徒の感想から、将来の夢のためにも、自分や相手の体を大切にしないといけないというが多かった。
- ・沐浴体験を講演の中で取り上げた。沐浴人形も赤ちゃんも同じ3キロの重さなのに、実際の赤ちゃんの方がとても重く感じたという生徒の生の声があった。それがいのちの重さなのだというお話が、生徒の心に響いた。
- ・小中連携の観点から小学校にも講演の案内をし、事前アンケートをもとに小学校で初経指導をお願いした。また、関係機関との連携の観点から、パパママ体験を保健師さんや地域の子育てメイトさんに頼んで行っている。